

ふれあい新聞

(7号) 昭和63年7月1日 田中野田町内会

町内の世帯数-255世帯
町内の人口数-881人 (昭和63年5月末現在)

地区の問題あれこれ

町内会長 中尾佐之吉

63年度に踏み出してもう3ヵ月になる、いま頭の中を去来することを述べさせてもらう。

1、西小分離のこと

西小学校を分離しなければならないと市教委から提言されたのは昭和60年である。そして63年4月には新設校を開校したいとも表明された。しかしいまもって実現していないことは言うまでもない。

西小はいま、1535名の児童数で、市内では芳泉小とともにトップクラスのマンモス校である。今年度は校庭をつぶしてプレハブで3教室をつくった。これからも最低毎年2教室づつ増やさねばならないだろうと言われている。これでは運動場もなくなり、給食施設もおいつかなくてパンクしてしまうはずである。

いま、今保地区に学校用地を求めて話が進められているが今年度中には目鼻がつくのではないかと期待している。

そして、つぎの問題は学区の線引である。新設校の学区は久米、今保、西長瀬、田中で構成しなければならないように思えるが、実際の線引をどこにするかは大きな問題である。

2、区画整理

田中野田の土地区画整理事業は市が62年度から工事を進めているが、今後の事業の進め方を手取り早く仮換地の指定という手続き面から市の計画を聞いてみると、つぎのとおりであるという。

年度別仮換地指定面積予定計画			
年度	面積(ハケル)	%	累計
62	5,02	20,0	20,0 (実施済)
63	11,31	45,0	65,0
64	6,04	24,0	89,0
65	1,51	6,0	95,0
66	1,26	5,0	100,0
計	25,14		

仮換地の指定と工事量とは必ずしも一致するものではないが、64年度までには道路と水路の工事は可成すすむのではないかと思われる。そして今後のスムーズな進捗が期待される。

3、公会堂移転

別項に改めて記載した。

町内会で本年度最も大きな課題 “公会堂の移転”について

町内会長 中尾佐之吉

田中野田の土地区画整理事業で、本年度、公会堂のある敷地の上に、区画街路(6-16号線)が建設されるので、今年度内に公会堂移転が要請されている。

このため、公会堂建設委員会を設置することとし、町内会の役員・各種団体代表者の方と相談して委員を決めてもらった。そして、5月14日の最初の委員会(委員21名)でつぎの役員が互選された。

委員長	町内会長	中尾佐之吉
副委員長	民生委員	和気督祐
“	田中地区区長	平松昇
“	町内会副会長	上中田和彦
会計		中尾昭義
監査役	町内会監事	原渥美
“	“	吉岡清

この委員会では、

- (1) 公会堂建設用地の選定
- (2) 公会堂移転又は新築計画の作成
- (3) 設計・施工業者の選定
- (4) 資金計画とその調達及び支出

などの業務を行うこととしているが、公会堂は移築でなく新築の方向で、また土地は区画整地の保留地その他を検討している。

なお、現在確実な財源は移転補償金、補助金、町内会積立金などであるが、建設費の全てを賄うことはできないのではないかと考えられるので、ある程度は皆様方にご無理をお願いしなければならないのではないかと心配している。ただし、このことについては事前に皆様にお話しし、賛同を得て実施するよう進めていきたいと思っている。

“わが郷土を語る” (その5) 地表から深さ10米に及ぶシルト層の田中野田の地層

このシリーズも話題がその都度あちこちととぶことになるがお許し願いたい。

さて、昨年12月から田中野田地区の区画整理事業が始まった。そしてその手始めに、この地区の都市計画道路「大元一辰己線」(幅員27米)が東端から建設されている。そして野田川に架設されるR・C橋の基礎工事にコンクリートパイルが打たれたが、工事現場を見られた方もあるとおもうが、長さ10米のこのパイルが自重でスルスルと一気に地表面まで入ってしまうのである。ということはこの地区の地質がき

わめて軟弱であることの証拠であると言える。

このことをもっとくわしく説明しよう。62年度、この地区の区画整理事業開始に先立って、ボーリング調査(地質調査)が行われた。この資料によると、地層の上部に厚さ約10米の細粒土層(シルト層と言われ、砂と粘土との中間の細やかさをもつ土の層)がある。ただしこの中間に2米程度の砂の層のあるところもある。そしてシルト層の下に砂レキを主体とする洪積層が堆積して、この地区の支持層となっているのである。

この地域は、もともと大昔は瀬戸内海の一部であった。そもそも、瀬戸内海は数万年前に陸地が陥没して海となったといわれているから、シルト層はその後河川から流出する土砂やヘドロがたまってできたものであろう。また砂レキ層それ以前つまり陸地であった時代からできていたものと思われるその厚さも10米以上あることは間違いないが、ボーリング調査が深さ19米くらいまでしか行われていないのでこの層の厚さはわからない。この層は洪積時代のものであると言われるから、今から1万年以上200万年までに形成されたものと言える。

なお最近、市の下水道局が市道西市-中仙道線について行ったボーリング調査でも同様の結果がでているからこの地区のような軟弱地層をもつ地域は広範囲なものと思われる。

昭和の初め、この地区に上水道が敷設される前は、住民の飲料水は井戸水に頼っていた。私も子供のとき、このきれいな水がどれくらい深さのところから湧き出ているのかわかろうかと思ったが、誰にもきかずいまもって分かっていなかった。前述の地質調査からみて地下10数米の砂レキ層までパイプを打ち込んで井戸水を得ていたのだということが分かった。

とにかく、私たちが住居しているこの土地の地下の姿も、私たちの生活に深い関係があることは言うまでもないことである。

(中尾 佐之吉)



“88 田中野田 夏祭り 日程のお知らせ”

第5回目を向かえる田中野田夏まつりは、来る8月6日(土)に決まりました。年々楽しいイベント、野田町内会の全員の参加による夏まつり。皆さん、今年こそ「カラオケ」「かくし芸」「手品」やってみませんか? 希望の方どんどん申し込んで下さい。

昨年のあの楽しい「男」野田祭大団等、数々の楽しいイベントを今年も用意致しております。もちろん、ビアガーデン、花火・・・さあ皆さんよってらっしゃい・・・おまちしていませ。

夏祭実行委員会